

3. 第一次遠洋一本的漁業試験

1. 目的

西海一本的漁業は古くから行われてきた漁業であつて津浦においては従つて遠洋に次ぐ重要な業態であり、今日まで比較的堅実に經營されている現状である。しかしながら本漁業は成程度漁場確定が望まれ増産に伴ひ傾む感があるもので其の打開策として新漁場を開拓し該漁業の發展を図らんとするものである。

2. 調査日時及び海域

自 1952年1月1日 至 2月4日

南支那海中央部 マツタレスフィールバンクとフィリッパインの最南端のパラワン島西部
(漁場図参照)

3. 使用船隻及び従業員、調査員

四等丸 15231号 400T

従業員 四等丸乗組員 中村船長 外16人

研修生 3人 船時漁夫 1人

調査員 接手 上地清吉 当真誠

4. 本調査に要した経費

甲) 油料燃料 \$1519.47

内訳

品名	単位	出港当日の		今航程の消費	単価		金額	
		現在	高					
ディーゼル油	リットル	46588	16213	50375	0.046	1397	25	
オイル	ノ	651	165	486	0.246	119	56	
冷凍機油	ノ	52	26	6	0.515	1	39	
ノロース	kg	12	11	1	0.765	0	77	
小計						\$ 1519	47	

乙) 消耗品 \$ 451.83

内訳

餌料 さんま 50% @ 2.60 78.00

い か 30% @ 1.80 54.00

氷 14屯 @ 6.30 88.20

魚糞肥低 15本 @ 2.00 30.00

ナイロンテグス(100m)25丸 170 42.50

外 40点..... 139.13 (船用消耗品含む)

小計..... \$ 451.83

合計 \$ 1951.30